

## 安 全 デ ー タ シ ー ト (SDS)

作成 平成 9年 6月 27日  
最終改訂 平成 28年 2月 19日

### 1.【化学物質等及び会社情報】

#### 製品

製品の名称	アルタン野菜・果物粗い
供給者情報	
会社名	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糀谷3-11-10 マーケティング室 開発企画課
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706
緊急連絡先	同上

### 2.【危険有害性の要約】

#### GHS分類

#### 物理化学的危険性

引火性液体 区分3

#### 健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2B  
発がん性 区分1A  
生殖毒性 区分1A  
特定標的臓器・全身毒性(反復曝露) 区分1(肝臓) 区分2(中枢神経系)

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、  
上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

#### 絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

#### 危険有害性情報

引火性液体及び蒸気  
眼刺激  
発がんのおそれ  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害  
長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ

#### 注意書き 【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。  
容器を密閉しておくこと。  
容器を接地すること／アースをとること。  
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。  
火災を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
ミスト／蒸気を吸入しないこと。  
取扱い後は手をよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

#### 【救急処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚(又は毛髪)に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
曝露またはその懸念がある場合	医師に診断／手当を受けること。 気分が悪いときは、医師の連絡／診断／手当を受けること。
眼の刺激が続く場合	医師の診断／手当を受けること。

## 【保管】

換気の良い場所／涼しいところで保管すること。容器を密閉しておくこと。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

## 人の健康に対する有害な影響

エタノールを含有しているため、高濃度の蒸気を吸入すると中毒を起こすことがある。

皮膚に対して、長期または繰り返しの接触により脱脂される。

眼に対して刺激性がある。

飲み込んだ場合の有害性はきわめて低い。

(成分は全て食品、食品添加物公定書記載の試験に合格した原料のみで構成されています。)

## 環境への影響

データなし

## 物理的及び化学的危険性

本製品は引火しやすい液体である。

## 3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物

成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	PRTR法
シヨ糖脂肪酸エステル	非公開	非公開	非公開	非該当
DL-リンゴ酸ナトリウム	非公開	676-46-0	2-1449	非該当
DL-リンゴ酸	非公開	6915-15-7	2-1442	非該当
エタノール	10~20	64-17-5	2-202	非該当
香料	非公開	非公開	非公開	非該当
食品素材	非公開	非公開	非公開	非該当
水	非公開	7732-18-5	-	非該当

内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質：環境省「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」(2000年11月版)で示された物質(65種類)を使用しない。

成分は全て食品、食品添加物公定書記載の試験に合格した原料のみで構成されています。

## 4.【応急処置】

目に入った場合	直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の処置を受ける。
皮膚に付着した場合	流水でよく洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、すみやかに脱ぎ皮膚を流水でよく洗い流す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の処置を受ける。
吸入した場合	蒸気、ミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所に移動して安静にする。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1~2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。
その他	使用中、目に異状を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用をやめてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。

**5.【火災時の措置】**

消火剤	水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	情報なし
消火方法	周辺火災の場合はすみやかに安全な場所に移す。 移動ができない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。 着火した場合、初期の火災には水、粉末、二酸化炭素などを用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。 容器が高温で破裂する恐れがあるので、消火活動には十分な距離をとること。 火災発生場所付近には関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護	消火作業では保護具を着用する。

**6.【漏出時の措置】**

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には、必ず静電気対策が施された保護具（保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴、保護マスク）を着用し、風下では作業をおこなわない。
環境に対する注意事項	罌水溝、河川、海上などに多量に排出されないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	風下の人を避難させる。 漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 付近の着火源、高温体および可燃物などをすみやかに取り除く。 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。 少量の場合は、漏洩した場所を多量の水で洗い流す。 多量の場合は、土砂などで流出防止を図った後、乾燥砂、土、おがくず、ウエスなどに吸着させて密閉できる空容器に回収する。回収した跡、または回収できないものは、多量の水で十分に洗い流す。

**7.【取り扱い及び保管上の注意】**

取扱い	火気に近づけない。 荒れ性の方や長時間作業する場合、濃厚液で使用する場合はゴム手袋を着用する。 キャップを開けるときに液が飛び出すことがある。また、容器を移動するときはキャップをしっかりと閉める。緩んでいると液が跳ねて目や皮膚に付くことがある。 用途以外には絶対に使用しない。 他の薬剤、洗浄剤などとは絶対に混ぜない。 他の容器に移し替える場合は、弊社指定の容器を使用し、誤飲等事故の恐れがあるので、飲料用の容器を含む他の容器に移し替えたり小分けしない。 うすめた液を長時間保存すると変質することがあるので、使用の都度うすめる。 野菜、果物を洗うときは、5分以上つけたままにしない。 野菜、果物は30秒以上流水ですすぐ。ため水の場合は水を替えて2回以上ですすぐ。 使用後はよく手を洗い、必要ならばハンドクリームなどで肌の手入れをする。 使い終わった容器は、十分に洗ってから処理する。
保管	火気、熱源から遠ざけて保管する。 危険物として定められた場所に保管する。 直射日光、40℃以上、多湿および凍結のおそれのある場所を避けて密閉して保管する。 子供の手の届かないところに保管する。

**8.【暴露防止及び保護措置】**

管理濃度			設定なし
許容濃度	エタノール100%の場合	日本産衛学会 ACGIH	設定なし(2014年版) 1,000ppm(2009年版)
設備対策		STEL	
保護具・呼吸器の保護			火気、熱源のない場所で使用する。 ミスト、蒸気が滞留しないように局所排気装置または全体排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。
目の保護			保護マスク
皮膚・身体の保護			保護メガネ ゴム手袋・ゴム長靴・保護衣

## 9.【物理的及び化学的性質】

状態	液体	
色調	淡黄色透明	
臭気	特有の芳香	
沸点	データなし	
融点	0°C以下	
蒸気圧	データなし	
蒸気密度	データなし	
比重	1.1(25°C)	
pH	7.0(30倍希釈液、25°C)	
溶解度	水溶性	
引火点	26.2°C	
燃焼または爆発範囲	なし	
水分分配係数	データなし	
自然発火温度	データなし	
分解温度	データなし	
蒸発温度	データなし	
その他	ヒ素	0.05mg/L以下
	重金属(Pbとして)	1.0mg/L以下
	メタノール	1mg/g以下
	全リン酸塩	検出せず
	蛍光増白剤	検出せず

## 10.【安定性及び反応性】

反応性	通常の手扱い条件においては危険な反応を起こす恐れはない。
化学的安定性	通常の手扱い条件(屋内、常温)においては安定である。 35°C以上の条件下にて酸価が上昇する。また、直射日光下にて退色する。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	火気、熱源の付近、直射日光、40°C以上、多湿、凍結条件下、開放状態
混触危険物質	特になし
危険有害な分解生成物	データなし

## 11.【有害性情報】 エタノール100%の場合

急性毒性	経口 使用原料の加算式判定		
	LD <sub>50</sub>	>2000mg/kg	区分外
	経皮 使用原料の加算式判定		
	LD <sub>50</sub>	>2000mg/kg	区分外
吸入(蒸気)	使用原料の加算式判定		
	LC <sub>50</sub>	>20mg/L(4h)	区分外
吸入(粉じん・ミスト)	使用原料の加算式判定		
	LC <sub>50</sub>	>5mg/L(4h)	区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有		区分2B
発がん性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有		区分1A
生殖毒性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有		区分1A
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	肝臓	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有	区分1
	中枢神経系	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有	区分2
その他の情報	成分は全て食品、食品添加物公定書記載の試験に合格した原料のみで構成されています。		

## 12.【環境影響情報】

データなし

## 13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物

下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。

少量の場合は、水で十分に希釈して排出する。  
 多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。

汚染容器、包装 使い終わった容器は、水で十分に洗ってから処理する。

## 14.【輸送上の注意】

## 国際規制

国連番号 1993(引火性液体類)  
 品名(国連輸送名) その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの)  
 国連分類 クラス3(引火性液体)  
 容器等級 III  
 海洋汚染物質 非該当  
 MARPOL73/78及びIBCコード

ばら積み輸送されない製品のため対象外。

HSコード 3402.20

国内規制 次の輸送に関する国内法規に該当するので、定められている輸送方法に従う。  
 消防法  
 危険物船舶運送及び貯蔵規則

## 輸送の特定の安全対策及び条件

輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。  
 荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。  
 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。  
 水濡れを避ける。

## 15.【適用法令】

消防法 危険物第四類第二石油類水溶性 危険等級Ⅲ  
 労働安全衛生法 施行令 別表第9 名称等を通知すべき有害物 61(エタノール)  
 危険物船舶運送及び貯蔵規則 引火性液体類  
 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 産業廃棄物

## 16.【その他の情報】

## 記載内容の問い合わせ先

アルタン株式会社  
 住所 東京都大田区東糀谷3-11-10  
 担当部門 マーケティング室  
 電話番号 03-3743-5705  
 FAX番号 03-3743-5706

## 改訂履歴

作成 平成 9年 6月 27日  
 改訂 平成 18年 3月 24日  
 最終改訂 平成 28年 2月 19日

## 参考文献

製品安全データシートの作成指針(改訂版)、日本化学工業協会(2001)  
 GHS対応ガイドライン、(財)日本化学工業協会(2012)  
 JIS Z 7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法、日本規格協会  
 JIS Z 7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、  
 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)、日本規格協会  
 労働安全衛生関係法令集、労務行政研究所  
 16313の化学商品、化学工業日報社  
 化学品安全管理データブック、化学工業日報社  
 公害防止の技術と法規(水質編)、産業公害防止協会  
 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善促進の進め方、日本規格協会  
 GHS分類結果データベース、製品評価技術基盤機構HP  
 GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報、厚生労働省職場のあんぜんサイトHP

## 注意

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。